

<目的>

獣医療の質の向上
チーム獣医療体制



{獣医師 + 認定動物看護師}

公的資格化

有能な動物看護の実践！！

★ **認定動物看護師**

高位平準化養成教育の構築と実施



これから

平成25年(平成24年度) 統一認定試験開始 動物看護師統一認定機構

<農水省の動き> 基本方針
口蹄疫・鳥インフルエンザ
家庭動物の普及(小動物医療)

* 家族の一員
* 飼い主様の動物医療への
期待や要望

動物看護師統一認定機構
委員として参加

動物看護職制度在り方検討委員会
委員として参加

日本動物看護職協会の設立



動物看護師は動物病院で必要不可欠な存在

国民の家庭動物飼育の普及

獣医療…家畜、軍馬の治療

いま

むかし

動物看護職制度在り方検討委員会 委員として参加



☆ 1

動物看護職制度在り方検討委員会 公益社団法人日本獣医師会HPに議事録掲載

会場 日本獣医師会・会議室

委員

<資格団体>

日本動物衛生看護師協会	(会長・山崎 薫)	認定齊一化・統一カリキュラム
日本小動物獣医師会	(副会長・生子哲男)	認定齊一化
日本動物病院福祉協会	(専務理事・原大二郎)	認定齊一化
日本動物看護学会	(理事長・櫻井富士朗)	認定齊一化
全日本獣医師協同組合	(理事長・会亀昭夫)	認定齊一化

<看護職>

日本動物看護職協会	(会長・太田光明)	認定齊一化・統一カリキュラム
	(副会長・横田淳子)	認定齊一化・統一カリキュラム

<教育機関>

全国動物保健看護系大学協会	(会長・若尾義人)	認定齊一化・統一カリキュラム
全国動物教育協議会	(会長・下園恵子)	認定齊一化・統一カリキュラム

<獣医師会>

日本獣医師会日本小動物獣医学会	(会長・大橋文人)	認定齊一化・統一カリキュラム
日本獣医師会	(理事・細井戸大成)	在り方検討委員会委員長
北海道獣医師会	(副会長・高橋徹)	
新潟県獣医師会	(開業医・小嶋佳彦)	
日本獣医学会	(理事長・西原真杉)	認定齊一化・統一カリキュラム

動物看護職制度在り方委員会

委員長 細井戸・獣医師会理事（小動物担当）

副委員長 高橋 徹（北海道獣医師会副会長）

検討内容 <動物看護職制度の確立に向けて①②③の小部会に分け検討>

- ① 動物看護職の就業環境整備
業務内容・雇用形態の見直しと改善検討
- ② 動物看護職の高位平準化対策
認定斉一化・統一カリキュラム策定
- ③ 動物医療のチーム医療体制の整備
動物医療におけるパラメディカル専門職としての
公的資格制度化

<会議開催記録>

平成21年11月27日 第一回 動物看護職制度在り方検討委員会

平成22年3月1日 認定斉一化検討小委員会・統一カリキュラム策定小委員会①

平成22年7月16日 認定斉一化検討小委員会・統一カリキュラム策定小委員会②

平成22年10月6日 認定斉一化検討小委員会・統一カリキュラム策定小委員会③

平成23年1月12日 第二回 動物看護職制度在り方検討委員会

平成23年2月28日 第三回 動物看護職制度在り方検討委員会
議案 動物看護師統一認定機構の設立について
統一認定試験の実施について

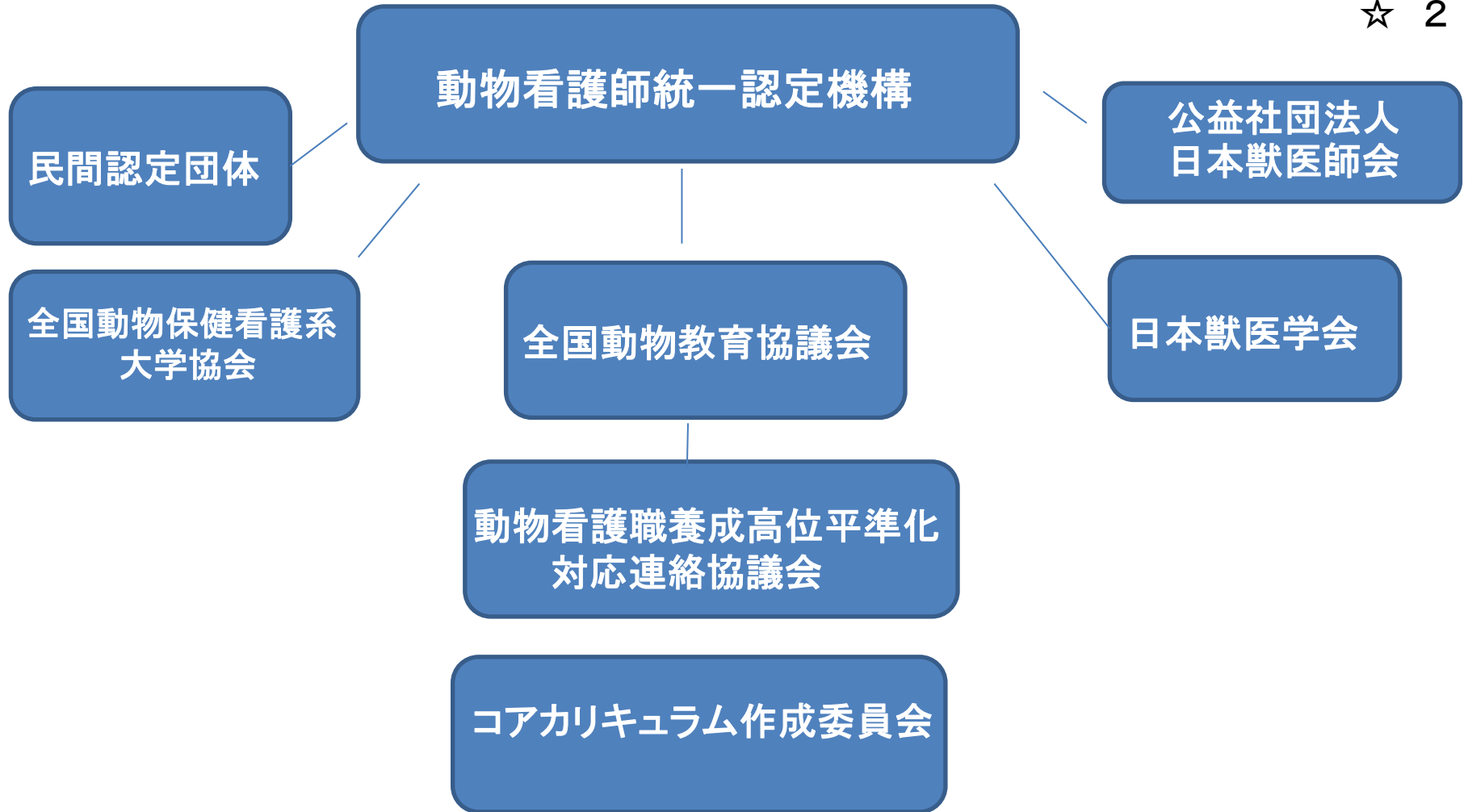
平成23年9月29日 動物看護師統一認定機構 設立

平成24年3月16日 第四回 動物看護職制度在り方検討委員会
議案 動物看護師の就業状況について

動物看護師統一認定機構 委員として参加



☆ 2



平成23年 1月11日 第1回 コアカリ作成発起人会
平成23年 2月16日 第2回 コアカリ作成発起人会
平成23年 6月 9日 第3回 コアカリ作成発起人会
平成23年 7月 7日 第4回 コアカリ作成発起人会

平成23年7月28日 東京 30日 大阪
＜コアカリキュラム作成検討会＞ 作成委員会設置の呼びかけ・作成委員の選出

平成23年 8月29日 第1回 コアカリ作成委員会
平成23年10月10日 第2回 コアカリ作成委員会
平成24年 2月24日 第3回 コアカリ作成委員会

平成24年8月6日 東京
「機構」主催 大学・専門教育機関の教育課程調整の会議 第一回

平成23年2月27日～3月8日 東京・大阪・札幌・名古屋・福岡
＜情報共有会＞ 動物看護職制度在り方検討委員会の紹介

平成23年10月21日 東京
＜動物看護師統一認定機構設立に伴う説明会＞

<コアカリ作成委員>

1	古川 俊紀	広島アニマルケア専門学校
2	石橋妙子	大阪ペピィ動物専門学校
3	坂元 祥彦	宮崎ペットワールド専門学校
4	牧野なぎさ(狩野由佳)	東北愛犬専門学校
5	関 智恵子(滋慶学園グループ5校代表)	大阪コミュニケーションアート専門学校
6	山内 かおり	ナンバペット美容学院
7	荒岡 杉	専門学校 穴吹動物看護カレッジ
8	高塚 恵	吉田学園動物看護専門学校
9	今西 孝一	国際動物専門学校・大宮国際動物専門学校
10	神部 知江子	中央動物専門学校
11	平原 法子(福田)	国際ペットワールド専門学校
12	奥田 宏健	岡山理科大学専門学校
13	山下 真理子	国際動物専門学校・大宮国際動物専門学校

<世話役>

下 蘭 恵子(全動協会長)・宮崎 安弘(全動協副会長)

中村 洋子(全動協看護部会)・中野 勘次郎(全動協看護部会)

<動物看護職養成高位平準化対応連絡協議会 参加校リスト>

No.	郵便番号	住所	法人名	学校名	地域
1	060-0063	北海道札幌市東区北16条東5-4-7	学校法人吉田学園	吉田学園動物看護専門学校	北海道
2	061-1373	北海道恵庭市恵み野西5-10-4	学校法人産業技術学園	北海道エココミュニケーション専門学校	
3	064-0809	北海道札幌市中央区南九条西7-1-31	学校法人工藤学園	愛犬美容看護専門学校	
4	064-0810	北海道札幌市中央区南十条西20-1-38	学校法人高橋学園	エス・ワン動物専門学校	
5	981-3116	宮城県仙台市泉区高玉町8-8	東北動物看護学院	東北動物看護学院	東北
6	983-0852	宮城県仙台市宮城野区榴岡5-12-10	学校法人孔明学園	東北愛犬専門学院	
7	980-0014	宮城県仙台市青葉区本町2-11-20	学校法人菅原学園	仙台総合ペット専門学校	
8	983-0033	宮城県仙台市宮城野区福住町2-14		菅原動物病院付属VTカレッジ	
9	980-0811	宮城県仙台市青葉区一番町2-2-3	学校法人日本環境科学学院	専門学校アニマルインターカレッジ	
10	020-0025	岩手県盛岡市大沢川原3-4-1	学校法人龍澤学園	盛岡ペットワールド専門学校	関東
11	370-0804	群馬県高崎市住吉町18-1	学校法人MGL学園	高崎動物専門学校	
12	320-0804	栃木県宇都宮市二荒町6-6	学校法人TBC学院	国際ペット総合専門学校	
13	315-0015	茨城県石岡市貝地2-8-38	学校法人佐山学園	アジア動物専門学校	
14	154-0011	東京都世田谷区上馬4-3-2	学校法人シモゾノ学園	国際動物専門学校	
15	330-0854	埼玉県さいたま市大宮区桜木町2-289-2	学校法人シモゾノ学園	大宮国際動物専門学校	
16	180-0004	東京都武蔵野市吉祥寺本町2-23-7		セビア動物専門学院	
17	114-0013	東京都北区東田端1-8-11	学校法人中央工学校	中央動物専門学校	
18	164-0002	東京都中野区上高田1-1-1	学校法人東京愛犬学園	東京愛犬専門学校	
19	166-0002	東京都杉並区高円寺北3-4-21	学校法人立志舎	日本動物専門学校	
20	260-0021	千葉県千葉市中央区新宿2-14-13	学校法人中村学園	専門学校ちば愛犬動物学園	
21	276-0046	千葉県八千代市大和田新田1093-8	学校法人川原学園	東京動物専門学校	
22	372-0833	群馬県伊勢崎市富塚町269-7		アートグルーミングスクール	
23	330-4353	茨城県つくば市沼田578	学校法人つくば文化学園	つくば国際ペット専門学校	
24	430-0943	静岡県浜松市北田町130-12	学校法人爽青会	専門学校ルネサンス・ペットアカデミー	中部
25	413-0011	静岡県熱海市田原本町9-1 熱海駅前第1ビル	学校法人高村育英会	国際ペットビジネス専門学校 熱海校	
26	950-0911	新潟県新潟市笹口2-13-4	学校法人国際総合学園	国際ペットワールド専門学校	
27	460-0008	愛知県名古屋市中区栄5-1-3	学校法人名古屋安達学園	専門学校名古屋スクール・オブ・ビジネス	
28	453-0014	愛知県名古屋市中村区則武2-1-8	学校法人秋田学園	専門学校セントラルトレーニングアカデミー	
29	390-0841	長野県松本市渚2-8-5	学校法人未来学舎	専門学校未来ビジネスカレッジ	
30	550-0013	大阪府大阪市西区新町1-32-1	学校法人コミュニケーションアート	大阪コミュニケーションアート専門学校	
31	537-0025	大阪府大阪市東成区中道3-8-15	学校法人宮崎学園	大阪ペビィ動物看護専門学校	近畿
32	542-0074	大阪府大阪市中央区千日前2-3-3		ナンバペット美容学院	
33	600-8236	京都府京都市下京区油川通塩小路27	学校法人京都中央学院	YIC京都工科大学校	
34	530-0004	大阪府大阪市北区堂島浜1-1-7	学校法人大阪安達学園	大阪ビジネスカレッジ専門学校	
35	612-0068	京都府京都市伏見区桃山福島太夫西町6	学校法人南京都学園	京都動物専門学校	
36	730-0041	広島県広島市中区小町8-33	学校法人英数学館	広島アニマルケア専門学校	
37	720-0052	広島県福山市東町2-3-6	学校法人穴吹学園	穴吹動物専門学校	中国
38	700-0003	岡山県岡山市半田町8-3	学校法人加計学園	岡山理科大学専門学校	四国
39	760-0047	香川県高松市塩屋町6-2	学校法人穴吹学園	専門学校穴吹動物看護カレッジ	
40	880-0801	宮崎県宮崎市老松1-3-5	学校法人宮崎総合学院	宮崎ペットワールド専門学校	
41	812-0027	福岡県福岡市博多区下川端町8-13		福岡動物病院看護士学院	
42	810-0022	福岡県福岡市中央区薬院1-12-30		九州サンシャイングルーミングスクール	
43	812-0011	福岡県福岡市博多区博多駅前3-8-24	学校法人九州安達学園	専門学校九州スクールオブビジネス	
44	812-0033	福岡県福岡市博多区大博町4-16	学校法人滋慶文化学園	福岡ECOコミュニケーション専門学校	

専門学校2年履修でのコアカリキュラム構成(案) ～平成28年度 高位平準化・公的資格に向けてのカリキュラム～「平成24年4月11日現在(案)」 2012/2/27 第3回専門学校コアカリキュラム作成委員会				
分野	定義	所属教科(授業科目)例		
基礎分野	人間の社会生活をする上での理解、教養、科学的思考の基盤となるもの	ホスピタリティー ビジネススキル 語学		
専門分野	動物の体の構造と機能を理解する	動物解剖生理学		
	疾病の成り立ちと回復の促進に寄与することを学ぶ	病態生理学		
		動物疾病学		
		薬理学 感染症学		
	健康管理と維持に必要な技術と概念を学ぶ	病原体・衛生管理		
		動物健康管理 動物栄養学		
	動物医療業界の関連法規を知る	関連法規		
	ヒトと動物の調和に関わることを学ぶ	公衆衛生学		
		繁殖学		
		コンパニオンアニマル学		
動物介在活動				
動物行動学				
生命倫理				
エキゾチックアニマル 実験動物 飼養管理学				
専門分野	動物看護に活かす	動物看護学 動物入院管理		
	基礎で習得した知識の応用	エックス線、超音波 救急救命対応 幼齢動物・高齢動物管理 クライアントエデュケーション		
		基礎で習得した知識の実践	動物飼育演習 看護演習 検査演習 外科演習 総合実習 インターン実習	
			コアカリ時数/単位	
			時数合計/単位	
			※注意※	
	【特記事項】		・基本的なコアカリ時数は高位化を目指す上で総時間2400時間とし、その中のコアカリに関して8割程度の時間数で検討しています	
			・時数は単位制導入を考慮し、講義・演習15～30時間/単位、実験・実習30～45時間/単位に換算できるよう調整の予定	
		・実習科目は、講義部分と差別化するため「演習」と「実習」に分けた		
		・公的資格化を考慮し、産業動物、野生動物、展示動物もコアに入れる予定		
	※今後の課題※			
	・公的資格化の基準として採血などがコアカリに入るかもしれない			

大学と専門教育機関の動物看護職養成高位平準化カリキュラム合同会議 議事録

平成24年7月8日

細井戸機構幹事長よりの挨拶

全国の大学及び専門教育機関による意見交換、掘合せがないと今後の進展がないと思われこの様な機会を持たせて戴いた。今年の2月19日、協議会が主催の動物看護職試験を行い、平均点は70点前後という結果となった。今年度は来年2月17日、また2月、3月とコンピューターを使用した試験も導入し、60%の正解をされた方に合格のめどを立てようと、大まかではあるが考えている。平成25年、26年、27年とこの3年間を移行期間として、3回の試験を実施する。受験資格は、ホームページに掲載しているが、専門学校を含め、学校法人資格の無い学校も含めて受験資格を与えている。但し、平成28年から実施される試験は、本日の会議で決められた内容のカリキュラムの教育を受けられた方のみ受験資格を与えると今までの話し合いで決まっている。本年度中にコアカリキュラムの概略の設定をぜひ作って戴きたいというのが、機構長及び機構からのお願いである。

状況説明

大学側

◆動物看護学モデルコアカリキュラムの基準となる教育項目の一覧 他 配布資料参照

平成20年6月にコアカリキュラムの検討を始めた。各大学から案を提出してもらい、動物看護学会で発表を行った。今後、到達目標とキーワードの作成、コアカリブックのようなものを作成し、8月24日の協会の総会にて検討し公表へと進んでいく予定である。その後、コアカリキュラム準拠の教科書作成となる。(26年4月まで)
【大学の1単位】90分を2時間とし、講義・演習は15～30時間を1単位とする。
大学の動物看護教育総単位は75単位、一般教養を入ると124単位となる。

全国動物教育協会側

専門教育校126のリストを保有し、その全校に統一認定化の動きをお知らせした。そのうち44校が有志として参集した。移行期間は受験資格を有することが決まっているので法人資格を持たない6校も在し共に検討に臨んでいる。まず、現状のカリキュラムを整理する事から始め高位平準化の定義を仮定しそれを目指して整えてきた(配布資料参照)
コアカリ作成委員会を設け44校から有志12名の委員が集まり検討を重ね現在に至っている。
本日まで提示したカリキュラムに関しては3月に統一機構に提示、農水省にも目直し戴いている。
我々専門教育機関への指導役として府大の大橋文人先生はじめ日次の酒井健夫先生に顧問となって頂き評価やご指導、ご指摘を受けている。また、機構長の山根先生にもご助言を頂いた。
本日提出のコアカリキュラムの中では、時間制・単位制と両方を明記している。
我々は家庭動物医療における実践力のある動物看護師の養成が役割と考えている。

コアカリ作成委員会の現状報告

コアカリカリキュラム構成案の説明 配布資料参照

現在専門学校側の履修時間は1600時間程度だが、2400時間の履修を目指すよう機構よりアドバイスを受けている。とても厳しいハードルではあるが高位平準化には必要な教育と認識をしてカリキュラムを作成し挑戦する意向である。

意見及び協議事項

■単位数と時間数の整合性を図ることが重要である。講義は15～30時間が1単位。実習は45時間が1単位である。ただし、大学の単位設定基準と専門学校の設定基準を考慮する必要がある。(大学は年間単位数が定められている)

■履修時間を増大する事も大きな問題だが、授業内容そのものも大切である。

■大学の動物看護教育総単位は75単位。(一般教養をいれて前出124単位)

■専門学校は専門職社会人の養成機関であると考え長期休暇等を控えつつ履修時間の増加に努力することも重要だ。

■大学は出口をどこに持っているのか話し合の場を持つ事を心がけてほしい。

■当面、認定動物看護師は小動物(家庭動物)医療中心の動物看護師とする。

■専門学校が2年、大学が4年の卒業見込み者が受験資格がある事にするのは不均等。今後の課題とする。

■大学と専門教育機関の双方で到達地点の共通目標を話し合う必要がある。

■看護職の公的資格化により、資格を持った看護師が獣医師にとって収益をもたらす事ができる人材であることを実感させる。そのような看護師になれるような教育をする事が、雇用増大、安定雇用に繋がる。

■獣医師会としての最大目標は、地方都市でも良質な動物医療を提供できるように国家資格を持った看護師が、獣医療の一部や予防業務を担えるようになること

■大学は看護師を排出するのではなく、学士を排出するところに特徴がある。

■教育の中身の一致はむずかしい。大学・専門教育機関それぞれ目標が違うと達成目標も違ってくる。

■28年からの試験問題の範囲、最低これだけは教育しておくべき科目は今年中に確定、提出してほしい。

■適切なカリキュラム(機構合同会議で検討し確定していくカリキュラム)を履修した専門学校卒業生に

受験資格を与えることを前提に今後の検討を進める

■次回は9月4日若しくは11日。部門ごとの担当も出席可。科目の概要を詰めておく。